

# R7年農事メモ(第5号)

令和7年7月4日  
白山石川営農推進協議会  
石川県農業共済  
白山農業協同組合

## 白山石川グレードアップ米づくり運動実施中！

今回のポイント！

□ 中干し後から出穂までは、約1ヶ月間の飽水管理

□ 出穂から刈取り直前までは、

① 乾かさない ② ずっと溜めない ③ すぐ落とさない

□ 水稻の生育ステージにあわせた適期防除の実施

### 水稻の生育状況（6月27日時点）

草丈は、ゆめみづほで平年並～前年より短く、コシヒカリで平年・前年よりやや長めです。  
茎数は、ゆめみづほで平年・前年並、コシヒカリで平年よりやや少なく前年並です。  
ゆめみづほは、幼穂形成期に入っており、中干しを終了し、間断通水に切り替えましょう。  
コシヒカリは、7月5日頃を目途に中干しを終了し、間断通水に切り替えましょう。

※今後の気象経過により出穂期が前後する可能性があります

【出穂期の見込み（5月連休までの田植、6月27日調査）】

品 種 名	出 穂 期 （ 平 坦 部 ）	出 穂 期 （ 山 間 部 ）
ゆ め み ゑ ほ	7月18日前後	7月20日前後
コ シ ヒ カ リ	7月27日前後	7月29日前後

### 当面の栽培管理

#### 1 水管理 ～飽水管理の徹底～

○中干し終了後は間断通水を実施し、徐々に飽水管理へ移りましょう。

急激な湛水は、根の酸素不足による根腐れや下位葉の枯れ上りを生じさせるので、行わないでください。

○出穂前後は花水として湛水する。※溜めっぱなしを避け、水の入れ替えに努めましょう。

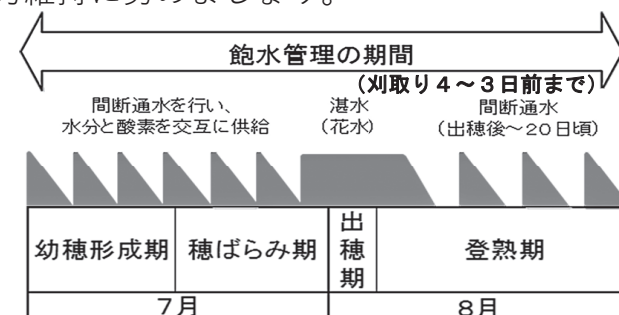
○飽水管理は登熟の後期まで実施し、稲体の活力維持に努めましょう。

#### ここにも注意を

○減数分裂期（前ページ参照）に低温(17℃以下)が予想される場合、深水にし、幼穂を保温しましょう。

○登熟期に高温が続く場合は、夜間通水を行い地温を下げるように努めましょう。

○強風やフェーンが予想される場合、あらかじめ十分に入水し、高温障害の発生を防止！



## 2 肥培管理 ～分施肥系の穂肥（コシヒカリ）～

◎施用基準（分施肥系） ※幼穂長を確認し、稲の姿に応じて的確に施用すること。

「BBLP有機060号」

施 用 時 期 （ 幼 穂 長 ）	施 用 量 (kg/10a)	葉 色
出穂18日前 (10～15mm)	30	3.5

- ・葉色が基準程度で葉身は直立・・・基準どおり施用。
- ・葉色がやや濃い葉身は直立・・・基準より5日遅らせる。
- ・葉色が濃く葉身の乱れが目立つ・・・基準より5日遅らせ、2割減肥する。

生育に応じた対応方法	生育が早い、生育旺盛	生育が遅い、生育不足
幼穂形成期	草丈が長く葉色濃い場合は、穂肥を遅らせ減肥する。	生育が遅れているため、穂肥や基幹防除が早すぎないように注意する。

## 3 肥培管理 ～一発体系の上乗せ追肥（ゆめみづほ）～

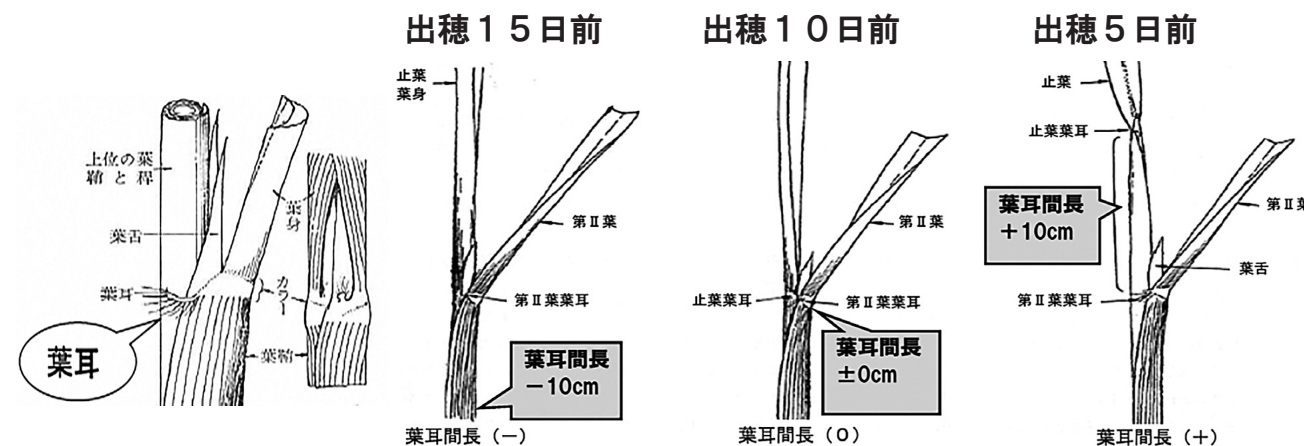
◎高温登熟が予想されるため、出穂前の葉色が淡い場合は、基肥一発肥料であっても上乗せ追肥を施用し、高温登熟による白未熟粒の発生を防ぎましょう。

「BBとれるぞう」

施 用 時 期 （ 葉 耳 間 長 ）	施 用 量 (kg/10a)	葉 色
出穂7日前 (±0～+5cm)	7～10	5未満

- ・ただし基肥に「早生一発くんDX28」を施用した場合は、上乗せ追肥は不要。
- ・昨年までの経過（秋落ち、大豆跡による基肥減肥など）や、今後の登熟期間の気象を踏まえて、実施を判断する。

### ◎葉耳間長による出穂前数の推定方法



### ○向こう1か月の天候の見通し（北陸地方）

参考：新潟地方気象台の情報（6/21～7/20）

平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
平年より高い見込み	平年より少ない見込み	平年より多い見込み

向こう1か月の気温は高く、特に7/6以降はかなりの高温が見込まれます。  
平年に比べて曇りや雨の日は少ないでしょう。

#### 4 病虫害防除 ～基幹防除～

剤形	散布時期	対象病虫害	薬剤名	使用量 10a当り	散布適期	ゆめみづほ出穂予想		コシヒカリ出穂予想		本剤の 使用回数	注意事項 (使用時期)
						平坦部 7/18	山間部 7/20	平坦部 7/27	山間部 7/29		
粉剤	1回目	いもち病 ウンカ類 カメムシ類	ビームトレボン 粉剤 5 DL	4 kg	出穂後 5 日～ 9 日	7/23 ～ 7/27	7/25 ～ 7/29	8/1 ～ 8/5	8/3 ～ 8/7	3回以内	収穫 7 日前 まで
	2回目	カメムシ類	ビームスタークル 粉剤 5 DL	3 kg	出穂後 15 日～ 19 日	8/2 ～ 8/6	8/4 ～ 8/13	8/11 ～ 8/15	8/13 ～ 8/17	3回以内	収穫 7 日前 まで
粒剤	1回目	いもち病 カメムシ類 紋枯病	イモチエース スタークル粒剤	3 kg	出穂前 9 日～ 5 日	7/9 ～ 7/13	7/11 ～ 7/20	7/18 ～ 7/22	7/20 ～ 7/24	3回以内	収穫35日前 まで
	2回目	カメムシ類 ウンカ ツマグロヨコバイ	スタークル粒剤 スタークル豆つぶ	3 kg 250 g	出穂後 5 日～ 9 日	7/23 ～ 7/27	7/25 ～ 8/3	8/1 ～ 8/5	8/3 ～ 8/7	3回以内	収穫 7 日前 まで
液剤	1回目	いもち病 カメムシ類	ビームエイト トレボンゾル	100～150L (650倍)	出穂後 3 日～ 7 日	7/21 ～ 7/25	7/23 ～ 8/1	7/30 ～ 8/3	8/1 ～ 8/5	3回以内	収穫14日前 まで
	2回目	カメムシ類他	ビームエイト スタークルゾル	60～150L (1000倍)	出穂後 10 日～ 14 日	7/28 ～ 8/1	7/30 ～ 8/8	8/6 ～ 8/10	8/8 ～ 8/12	3回以内	収穫 7 日前 まで
ドロー ン	1回目	いもち病 カメムシ類	ビームエイト トレボンゾル	800mL (5倍)	出穂後 3 日～ 7 日	7/21 ～ 7/25	7/23 ～ 8/1	7/30 ～ 8/3	8/1 ～ 8/5	3回以内	収穫14日前 まで
	2回目	カメムシ類他	ビームエイト スタークルゾル	800mL (8倍)	出穂後 10 日～ 14 日	7/28 ～ 8/1	7/30 ～ 8/8	8/6 ～ 8/10	8/8 ～ 8/12	3回以内	収穫 7 日前 まで

#### 5 病虫害防除 ～随時防除～

稲こうじ病  
紋枯病 } 常発地や前年に発生した地域は、防除を行いましょう。  
特に、ゆめみづほは紋枯病の耐病性が低いため、注意が必要です。

対象 病害	薬剤名	使用量 10a当り	散布 適期	本剤の 使用回数	注 意 事 項
稲こうじ 病	Z ボ ル ド ー 粉 剤 D L	3～4 kg	出穂15～10 日前まで	—	使用時期：出穂 10 日前まで (遅れると薬害が発生する)
稲こうじ 病・ 紋枯病	モンガリット 粒 剤	3～4 kg	出穂 3～2週間前	2回以内	①水深3cm程度で、 散布後 4～5 日は湛水を保つ ②使用時期：収穫 30 日前まで
紋枯病 他	バリダシン 液 剤 5	60～150L (1000倍)	出穂10日前ま で	5回以内	使用時期：収穫 14 日前まで
	バリダシン エ ア ー	800ml (8倍)			

### 病虫害防除は適期を逃さず実施！

病虫害発生予報第3号（6月12日発表、農業試験場病虫害防除室）  
**紋 枯 病：やや多** 前年発生ほ場・茎数の多いほ場で多発する可能性があります。  
**斑点米カメムシ類：多**  
**7月上旬仕上げ除草&適期防除の徹底で、斑点米を減らしましょう！**

#### 6 倒伏軽減剤

薬剤名	使用量 10a当り	散布 適期	本剤の 使用回数	注意事項
スマレクト 粒 剤	2～3 kg	出穂20日～7 日前	1回	湛水状態でムラなく均一に散布し、 散布後 5 日間は湛水を保つ。 散布後 7 日間は強制落水しない。